

愛ランド通信

～人と動物の共生を目指して～

平成29年度秋号

犬&猫の飼い方 注意情報

知っておきたい★猫の毛球症対策

猫のグルーミング(毛づくろい)は、あのザラツとした独特の舌で、抜け毛や体毛のお手入れを行います。グルーミングには、体を清潔に保つことはもとより、自分の気持ちをリラックスさせたり、暑いときには、唾液の気化熱により体温を調節する効果もあります。また、猫はストレスを感じれば、過剰にグルーミング行動をとることも。

●猫の毛玉(ヘアボール)吐きとは?

グルーミングで飲み込んだ体毛は、胃や腸では消化されないため、毛玉吐きや便で体外に排出する必要があります。毛玉吐きとは、胃の中で毛玉状のかたまりになった体毛を口から吐き出すことですが、吐き出す頻度には個体差があり、全く毛玉を吐かない猫もいます。



▲ザラザラとした突起物のある舌でお手入れ中

●猫の毛球症(もうきゅうしょう)とは?

毛球症とは、グルーミングで飲み込んだ体毛が、毛玉吐きや便でうまく排出されず、胃の中でボール状になって停滞してしまうことです。これにより、胃や腸の内容物の通過障害が生じ、食欲不振や吐き気、便秘などの症状が現れます。重篤になることは少ないですが、腸閉塞をおこすと命に関わる可能性もあります。



▲ブラッシングは気持ちいいにゃ～

●毛球症を防ぐには?

毛球症について、普段から注意して観察していただきたい点は、①食欲がなくなる、②便秘になる、③吐くようなしぐさをするのに何も出ないなど。普段の生活の中でいつもと違う行動が続くときは、すぐに動物病院に連れて行きましょう。また、予防策として、①普段からブラッシングを行い無駄な体毛を除去する、②過剰にグルーミングさせないように普段からストレスを与えない、③毛玉を出しやすくするフードを与えるなど、愛猫の健康維持に心がけてください。特にブラッシングによるスキンシップは、飼い主と愛猫の信頼関係アップにつながるの、おすすめです。(DON)

インタビュー

センターから譲渡されたネコその後、どうしていますか?

家族に迎えて

実家では犬と猫を飼っていた安田さん。京都で一人暮らしをする中、猫を飼いたいという強い思いからペット可のマンションを探しておられました。猫を飼うなら動物愛護センターからという思いがありましたが、なかなかこの子と思える猫に出会えませんでした。ある日、センターに行くときとひとりでポソソと他の子とはテンポが違う雉之助くん(推定1歳、オス)が気に入りましました。また別の日に会いに行くとそっと膝に乗ってきたそうです。そのときまさに運命を感じたそうです。「この子のペースに合わせて遊んであげたい!」と、譲渡を希望。初めて家に来たとき、何の迷いもなく「ここが今日から安心できる僕の居場所なんやあ〜」と、キャットハウスの中に入り落ち着いた様子だったそうです。多飲多尿、腹部膨満といった腎臓病が疑われる症状に加え、かみグセもあり、新しい飼い主さんがなかなか決

膝に乗ってきたときは運命を感じました!

ペット飼養可のマンションに引っ越された安田泰子さん。雉之助(きじのすけ)くんとの出会いは必然だったのかもしれないね。



▲この膝枕が落ちつくにゃ〜



▲ねえねえ次は何して遊んでくれるの? まらない猫だったので、譲渡が決定したときはセンター職員、ボランティアスタッフともに大喜びでした。腎臓病の初期ということもあり、獣医師の指導の下、安田さんの食事管理のきいもあって今では標準体重になり、多飲多尿もなくなりました。

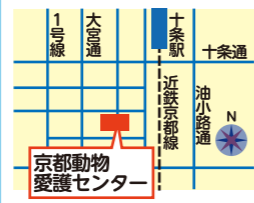
帰宅後は膝の上に乗って1時間べったりと甘えん坊になり、甘がみも覚えた雉之助くんと過ごす毎日がとても楽しいとお話いただきました。雉之助くん〜素敵なお家が見つかって良かったね!(yoshi)

編集後記

特集の取材を通して、職員の方々の熱い思いに感動しました。犬たちに新しい飼い主さんが見つかりますように。(TM) 今回の特集記事の取材でたくさんの方々から色々なことを学ばせていただき感謝しています。犬たちの全てを受け入れてくれる飼い主さんが見つかることを心から願っています。(Jun)

本誌は「京都市人と動物が共生できるまちづくり基金」からも出資していただいています。まちづくり基金に寄附していただいた方のお名前はホームページにて公開いたします。なお、寄附の方法についても、こちらのホームページでご覧いただけます。

京都動物愛護センター 検索



センターへのアクセス

- 近鉄十条駅から徒歩5分
 - 京都市営地下鉄烏丸線 十条駅から徒歩15分
 - 京都市営バス 十条大宮停留所から徒歩5分
- ※無料駐車場はございません

〒601-8103
京都市南区上鳥羽仏現寺町11番地
電話: 075-671-0336
FAX: 075-671-0338
開所時間: 午前9時~午後5時
休所日: 木曜日(祝日の場合は翌金曜日) 年末年始

発行: 京都動物愛護センター 平成29年10月31日



特集 ぼくたちと暮らしませんか?

～京都動物愛護センター収容犬の魅力を探る～

犬の十戒を知っていますか?

犬には家庭でゆっくり過ごさせたいです

センター職員に聞きました

犬たちから自己紹介

犬たちによいご縁を待っています

センターに収容される犬は成犬が多く、中には高齢犬や大型犬、また人見知りの子もいます。「飼うのが難しいのでは?」と思われるかもしれません。そこで秋号では実際にお世話しているセンター職員に話を聞き、センター収容犬の素顔に迫ります。

その子のペースであせらずに

Q センターで気をつけていることは何ですか?

A 高齢犬ならそのゆっくりした動きに合わせて、こちらも動きをゆっくりします。お散歩もその日の体調次第で無理はさせません。食事やトイレに工夫がいますが、それは人間の高齢者も同じですね。大型犬は普段はおとなしい子でもやはり力は強いので、とっさの動きに備えて注意が必要です。人見知りの強い子には時間をかけて、まずは同じ空間で過ごすことから始めて毎日少しずつスキンシップを重ねています。少し慣れてきてもこちらが焦るとまた振り出しに戻ることもあります。人間が怖くないと思えるよう、無理強いせずほめて育てます。

犬は飼い主で変わる

Q ズバリお聞きします。保護犬を飼うのは難しいですか?

A どの犬も人間をよく見えています。愛情をもって世話をしてくれる人には信頼を寄せてなついてくれます。高齢犬は介護の問題と切り離せませんが、歳をとるのは当たり前のこと。どんな年齢の子でも最期を看取る覚悟がいるのは同じです。大型犬だからといって必ずしも広い家が必要なわけではありません。十分な散歩や運動ができれば、必要なのはむしろしつけです。これも保護犬に限ったことではありませんね。人見知りの子は人間への恐怖心や不信感で心も体も固まっています。でも、その心と体を柔らかくできるのもまた人間なんです。

犬の最期は飼い主さんの隣で迎えさせたい

Q 未来の飼い主さんへメッセージをお願いします

A 収容頭数も多く、一頭一頭かけられる時間は限られていますが、それぞれの幸せな余生を願って未来の飼い主さんへと命のバトンをつなげています。どうぞ早急に結果を求めることなく、家族の一員として根気よく犬に付き合ってください。犬のいるべき場所はセンターではなく、飼い主さんのそばなのです。

特集 ぼくたちと暮らしませんか?

～京都動物愛護センター収容犬の魅力を探る～

犬たちから自己紹介

わしは、しろろ。お呼びかな? 気が向いたら、そばに行くよ。オヤツ貰えるなら、喜んで行くよ。わしってかわいいらしいから、もちろんかんたりにないから、なでてもらっても大丈夫。シャンプーはちょっと苦手かなあ。トイレ事情? 年寄りだからね、いつもトイレシートを敷いてるよ。これからはもっとかなあ? こればかりは、一緒に暮らしてみないと、わしにもわからないなあ。



センター名: しろろ
推定14~15歳 オス

こちらの顔を見て、アイコンタクトもとれるようになりました。



センターの職員に聞きました

Kさん Iさん Hさん

ぼくは、剛。かわいいからって、さわられると「やめて!」と言ってしまふかも。ぼくを大切にしてくれる人なのかじっくり見極めたいんだ。時間はかかるかもしれないけど、信頼すると心を開くよ。喜びを全身で伝えるよ。



センター名: 剛
6歳 オス

愛情をいっぱいもらったら、きっとすぐによい家庭犬になります。

おいらは、だいちゃん。ハンサムなんやって、ほんまかな? なでられるより、オヤツがいいよ。オヤツは台の上にそっと置いてね、手までかじりそうになるから。若い頃はほえたけど、今はすっかり落ち着いて、散歩もほどほどがちょうどいい。食欲だけは、まだまだ若いもんには負けへんよ。



センター名: だいちゃん
12歳 オス

センター生活も長くなりました。最近は食べてもスリムな体型のままです。

ぼくは、南斗です。運動が好きで、優しくして無口です。犬にも人にも友好的ですが、小動物を見ると、スイッチが入って突進したり、ほえたりします。お散歩してくれる人は、ぼくより力強い人が安心です。



センター名: 南斗
推定7~9歳 オス

初めての人も尻尾を振ってました。よく食べます。

あたしは、おと。おっとりしてるらしいの。いつも、まったりしているから、うしろから急にさわらないでね。びっくり驚いちゃうから。これからも、ゆっくりのんびり暮らしたいわ。



センター名: おと
推定15~16歳 メス

ステップ踏むわよ

歳はとっても、華麗なステップで歩きます。

センター卒業生 野犬だったポコちゃんよ!

(推定7歳 メス)

センターに来た頃は、人間が怖くて人前では何も食べられずさわられると体がコチコチに固まりました。でもそんな私を上田和美お母さんは「健気な子だ」と家族に迎えてくれました。新しいお家でも部屋の隅から動けなかったけど、お母さんは「ポコちゃん大好き。かわいいね」と毎日声をかけてくれ、おかげで半年後には、朝、お母さんに尻尾を振って挨拶できるようになりました。散歩なんて夢のような話だったけど、お母さんがゆっくりと根気よく一緒に歩くことを教えてくれて、1年たった今では日課です。途中で地面をゴロゴロするのをお母さんに見てもらいます。時々反抗して座り込むけど、お母さんは怒らず待っていてくれます。「急がば回れ」なんだって。最近初めてシャンプーをしてもらいました。



優しいお母さんとおねえちゃんと一緒にいられて幸せ

ポコちゃんの変化に信じられない思いです。後追い調査で幸せな様子を聞けるのは本当にうれしいです。

現在と未来の飼い主さんへ

1面職員が紹介した「犬の十戒」とは、犬から飼い主へのお願いとして書かれた作者不詳の英文の詩です。どんなに飼い主を信じ、愛し、必要としているか…犬の思いがあふれています。犬と暮らすとは、そんな犬の心も体もすべて、その命の最後まで受け止めることではないでしょうか。センターの犬たちは、年齢や犬種、生い立ちに関係なく、今を共に生きてくれる人を必要としています。どうぞ会いに来てください。

(文: TM&Jun)

『わんにゃんきょうとアニラブクラス』レポート

センターでこんなことやってます!

8月5日(土)、6日(日)にセンターのボランティアスタッフ「普及啓発プログラム実践チーム」が企画・実践する「わんにゃんきょうとアニラブクラス」を開催しました。このイベントは、センターの犬や猫を通して命の尊さを学べるようにと小学生を対象にしたもので、今回が5回目となります。夏休みということもあり、両日共たくさんの子供たちが参加してくれました。クイズやお絵描きといった共通のプログラムのほか、5日の猫編では猫とのふれあいの時間や、センターの仕事と野良猫についてのお話がありました。悲しい殺処分のお話もありましたが、子供たちの真剣な眼差しがとても印象深かったです。また、プログラムの最後には慰霊碑の前で一緒にお祈りしました。



▲「天国で幸せになってね」と慰霊碑前で

6日の犬編ではセンターの犬の紹介や犬舎の見学をしました。犬舎では実際に個室に入り、犬たちがどのように暮らしているのかを体験。皆さん興味深くスタッフの説明を聞いていました。今回のイベントは参加してくれた子供たちだけでなく、保護者の方にもセンターのことを知ってもらいたい機会だったのではないのでしょうか。

今後の予定はホームページでお知らせしますので、次回も多くの方に参加していただければと思います。(atk)



▲犬のおうちに興味津々!



▲2頭の保護犬とご対面



▼シフォン(左)とナスビ(右)はとても仲良し!

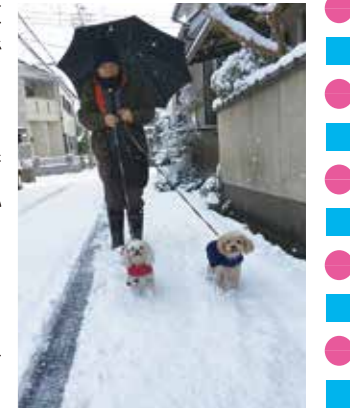
ペットロスを治してくれてありがとう。我が家の宝物

ボランティア1期生 涌田 理&シフォン、ナスビ

私が子供だった頃、白くてフワフワの子犬を貰ったのが犬との暮らしの始まりです。その後、今から30年ほど前にセンター(旧家庭動物相談所)から1頭目の子犬を、その4年後に2頭目の子犬を譲り受け、16年ほどその2頭と一緒に暮らしました。2頭を順番に見送った後、私はひどいペットロスになってしまいました。数年経った頃、トイプードル専門にレスキューをしている知人から「そろそろ犬を飼ったらどう?」と勧められたのがきっかけで、2頭の保護犬を迎え入れることにしました。それが今年で12歳の「シフォン」と8歳の「ナスビ」です(いずれも推定年齢)。

2頭とも我が家に来た当初は何日間も、ベッドに入ったまま出てこず、ご飯も水も口にしない状態でした。私が思うには、過去の環境がひどくつらいもので、人に甘えたことがなかったのでしょうか。家族みんなで優しく思っ毎日接し、息子が上手に食べさせるようにして、やっとご飯を食べるようになったときはほっとしました。外を歩くこともできず、抱っこして散歩に行っていました。今では「散歩に行くよ」と言うと玄関まで飛んで来て待っています。「ご飯ですよ」と言えば飛んで来ます。ドッグランに行ったときは、ドッグランを元気に走り回り、楽しそうに遊んでいました。帰るとき呼ぶとすぐに私のところに飛んで来ます。雨の日も雪の日も、毎日散歩に行くほど2頭は散歩が大好きで、とても仲良しです。近所の皆さんにもかわいがられています。

12歳のシフォンには今年の酷暑がこたえたのか熱中症になり心配しましたが、食事療法によりすっかり元気になり安心しました。今では我が家になくはならない宝物、家族の一員です。これからも元気で長生きしてくれることを心から願ってやみません。



▲雪の日の散歩、お父さんと一緒